

ごあいさつ

100th



キムラ海陸通商株式会社
代表取締役社長

久貝 泰洋

100周年を顧みて ～100年の歩み～

弊社は、大正9年4月の「木村商店」の創業以来、一貫して船舶に対する船舶用品の供給を愚直ながら誠実に運営してまいりました。幸い、令和2年4月をもちまして、創業100周年の輝かしい年月の輪を積み重ねることが出来ました。

これ偏に、永年に亘りご愛顧を賜ってまいりましたお得意様のご指導致鞭捷の賜物であり衷心より御礼申し上げますとともに、常日頃からお世話になっておりますお取引先の皆様方の多大なるご支援ご協力に改めて深く御礼申し上げます。また、弊社の諸先輩を初め全社員の一致団結と不断の努力に対しても、ここに敬意と感謝を申し上げます次第であります。

創業者 久貝幸太郎は、大正9年4月僅か2年余りの丁稚奉公ののち19歳の若輩にして大阪市港区尻無川2丁目16番地の、間口2間の借家を店舗として独立致しました。

当時の同業界には所謂「洋船具屋」と「和船具屋」の2種があり、本人は「洋船具屋」にて修行してきた者でありましたが、開業当時は手っ取り早く帆船を対象といたしましたが、奇抜ともいえる独特の商才と強靱な体力と実行力の熱血漢でありました本人は大変な苦労はしましたが、数年のうちに世間に認められるような「洋船具屋」となりました。昭和9年には当時の時節柄、ハルビン市にも出店を試みるまでの成長を遂げることができました。戦中の本人の隊役や、通信省による大阪船舶用品配給株式会社への統合や、戦後処理を経て、昭和23年11月に株式会社へ改組、株式会社 木村商店として、戦後の歩みを本格的に再開することになりました。

爾來、社業の発展に応じて、業務の遂行をより専門的に、より機能的にするため順次独立の組織体に、各事業部及び支店・営業所を分社化し、いわゆる連鎖店として経営の効率化を試みてまいりました。弊社を中心とした企業グループ

が形成され、創業以来の業務を各系列会社が分業分担し専門しました。また、これら企業群の母体であります弊社は、もちろん船具をその「源」といたしておりますが、昭和30年代に入って、ヤンマーディーゼル株式会社、日本ビラー工業株式会社、其の他からの代理店委嘱もあり、漁船市場や産業資材市場へと更に展開して、グループ会社として「海」に、「陸」に、おのおの技術専門分野に積極的業務の拡大と実績を重ねてまいりました。

時代は更に進み、主要海運会社の東京一極化と、新幹線や高速道路の整備、さらには通信手段の大変革は、弊社における連鎖店(Voluntary Chain)運営が、経営の効力を失墜する時代の到来となったのを機に、船舶用品販売のグループ企業を再統合し、木村船舶用品株式会社と、親会社、株式会社木村商店との二者連立運営に移行しました。

時代の進歩はさらに著しく、経営管理システムによる全組織の一体化の必要性に鑑み平成19年には株式会社木村商店と木村船舶用品株式会社との資本統合による、株式会社 KK ロムホールディングスの設立と、その資本管理下にて二社営業統合のキムラ海陸通商株式会社を設立し、完全経営管理された全組織の一体化と機能化を実施することができました。

弊社は「事業は人なり、人は和なり」を創業以来の企業の精神といたしております。

古い伝統と堅固な基礎のもと、和合の人間集団を目指し、経営者・従業員共存の企業繁栄と社会に貢献しうる健全な企業の成長が続けられるよう、一層の努力を重ねてまいり所存でございます。

何卒宜しくご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

大正9年 4月1日

社長 久貝 幸太郎

創業者曰く 「我が人生の最大の成長期」

大正 9年 4月 ● 創業者 久貝幸太郎 個人企業として船舶用品商 木村商店を創立、船用金物、錨、鎖類の販売を開業

昭和 6年 10月 ● 鉄工業、啓工鉄工所を新設、船舶用滑車の製造販売を兼営

昭和 7年 6月 ● 船舶解体事業を兼営

昭和 9年 3月 ● 満洲国ハルビン市に、ハルビン木村商店を設置 船用品其の他の販売

昭和 15年 10月 ● (有)大阪船舶用品配給所に企業合同し、久貝幸太郎 代表者となり船用品全般の販売

昭和 17年 2月 ● 通信省 管船局 船用品配給機構 整備要項により大阪地区業者の大企業合同に伴い大阪船舶用品配給(株)に統合

昭和23年 11月

代表取締役社長 久貝 幸太郎

株式会社 木村商店設立による 戦後の基礎固め

昭和23年 11月 ● 終戦に依り大阪船舶用品配給(株)解散に伴い、株式会社 木村商店を設立、再発足(資本金 1,000万円)

昭和28年 9月 ● 神戸営業所設置

昭和32年 2月 ● 徳山支店設置

昭和32年 6月 ● 東京支店設置

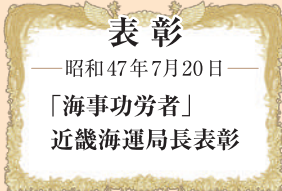


久貝 幸太郎

木村商店 創業社長
大正 9年 4月～

株式会社 木村商店
初代表取締役社長
昭和 23年 11月～
昭和 55年 1月

株式会社 木村商店
取締役会長
昭和 55年 1月～
平成 14年 5月 6日 逝去



表彰
—昭和47年7月20日—
「海事功労者」
近畿海運局長表彰



平成9年に発行した
自伝「我が航路」

「我が航路」に曰く、私は洋船具屋を修行してきましたが、開業当時は手っ取り早く帆船(和船具屋)を対象に商売をしました。錨、鎖の取引を主体としました。錨は目方、鎖は太さであります。目方、太さが目見当で分かるまでに修業時代から精進していました。足繁く夜明けとともに、市中同業者の店先置場の錨、鎖の在庫状況を見廻り、脳裏にブックキングして自分の取扱在庫に取り入れました。また、毎日のように午前中 安治川筋、午後 尻無川と木津川筋を回り、ご用伺いに訪船しました。その後 洋船具の取扱いについては、先進国解撤船より取り出した新型補機類他各種資材に着目し、自前にて整備の上、主要取扱商品とし、さらに昭和に入っては鉄工業や船舶解体事業を兼営して、当時洋船具屋に求められた外洋船に対する各種船用金物商品の充実を計り、これを足掛かりとして一氣に特徴ある「洋船具屋」となり、各船主の修繕費の低減に寄與し、「創業65周年記念祝賀会」の挨拶に曰く、「私の生涯における最大の成長期」と、自負するまでになりました。昭和9年3月には満洲国ハルビン市に、ハルビン木村商店を設置するまでになりました。

昭和55年 1月

代表取締役社長 久貝 幸太郎
代表取締役 久貝 傳次

事業拡張を目指し模索・連鎖店方式 及び関連企業設立

昭和34年 4月 ● 本社工作部を分離、(株)第二木村商店工作部を設立

昭和35年 7月 ● 本社営業部の一部を分離、(株)大阪木村商店に改組、東京支店を(株)東京木村商店に改組、神戸営業所を(株)神戸木村商店に改組及び徳山支店を(株)徳山木村商店に改組

昭和37年 3月 ● (株)千葉木村商店を設立

昭和38年 12月 ● 日進工業(株)を設立

昭和39年 4月 ● (株)千葉木村商店は、地区企業合同により千葉海陸興産(株)に統合

昭和39年 12月 ● (株)大阪船舶用品センター設立

昭和41年 2月 ● (株)徳山木村商店は、地区企業合同により徳山船用(株)に統合

昭和54年 8月 ● (株)大阪船舶用品センターの全営業権及び従業員を(株)木村商店に継承統合

昭和55年 6月 ● 会社法人(株)大阪船舶用品センターを、日進工業(株)に吸収合併

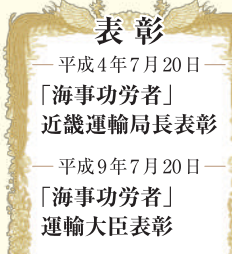


久貝 傳次

株式会社 木村商店
昭和 55年 1月 代表取締役

株式会社 KK ロムホールディングス
平成 19年 11月 代表取締役

キムラ海陸通商株式会社
平成 21年 11月 取締役



表彰
—平成9年7月20日—
「海事功労者」
近畿運輸局長表彰
—平成17年4月29日—
「旭日双光章」叙勲

●昭和40年代に入り、連鎖店組織が失効する時代に合わせ、千葉、徳山の2社は現地同業資本と合併させました。
●昭和54年には、昭和30年頃より本社外国船部として輸出船向け乗出船用品納入の実績を基礎に、昭和39年 株式会社大阪船舶用品センターとして独立させましたが、昭和54年 時代の変化に対応すべく営業権と従業員を本社に再統合しました。当該社はネイティブな外国船に対する、乗出船用品を含む一般運航用船用品の総合的サプライヤーとして、米国メジャーオイル系船主や香港・シンガポール船主の他、ヨーロッパ系船主、特に取引に熟練が必要とされるギリシャ系船主へも充分の納品と、取引経験の蓄積を以っての本社への統合は、国内船主の多くが便宜置籍船等に代わり、外国人船員の配乗が一般化する時代に向けての充分な底力となりました。
●平成15年には、JIS-Fによる船用鋼板及び船用鋳鋼滑車と関連の荷役金物一式を製造販売していた、日進工業株式会社

平成14年 6月

代表取締役社長 久貝 傳次

海運会社の東京一極集中は、 関連企業・連鎖店の再統合を要求

昭和56年 8月 ● (株)大阪木村商店、(株)東京木村商店及び(株)神戸木村商店の3社の連鎖店を対等合併し、木村船舶用品(株)と改組の上、各々大阪店、東京店、神戸店とし、本店を大阪店内に置く

昭和57年 12月 ● 木村船舶用品(株)北九州店開設

昭和58年 4月 ● JFR 神戸駅前に賃貸テナントビル「木村商店ビル」建設

昭和63年 2月 ● 和泉市にマリニョショップ「キムラマリン」マリノボート展示場開設

平成 3年 9月 ● (株)木村商店による尾崎漁港内に尾崎漁業組合名義の舟艇整備工場建設、同工場に当社独占の使用収益権を設定の上、当社のサプライヤーに賃貸

平成 6年 6月 ● 木村船舶用品(株)シンガポール支店開設

平成 11年 12月 ● (株)木村商店 築港支店エンジンサービス工場内に8屯海上クレーン設置の上、「キムラマリン」移設

平成 14年 10月 ● 「キムラマリン」展示場は、自動車展示場・販売・整備工場に改装の上、賃貸店舗に

平成 15年 6月 ● 日進工業(株)の営業権を、(株)木村商店に譲渡のうえ、会社法人日進工業(株)を三都土地建物(株)に吸収合併

平成 17年 6月 ● 神戸駅前「木村商店ビル」附属立体駐車場設置

代表取締役社長 久貝 泰洋
代表取締役 久貝 傳次
平成 19年～
平成 20年

代表取締役社長 久貝 泰洋
平成 20年～

経営管理システムによる企業の再構築、 (株)KK ロムホールディングス・ キムラ海陸通商(株)設立

平成 19年 11月 ● (株)木村商店と木村船舶用品(株)のグループ2社統合による資本管理会社として、(株)KK ロムホールディングスを設立 資本金 3050万円

平成 21年 11月 ● (株)木村商店の木村船舶用品(株)の吸収合併による、キムラ海陸通商(株)を設立 資本金 9,000万円

平成 26年 9月 ● (旧)木村船舶用品(株)のシンガポール支店機能の継承の為、Kimura & Partners Singapore Pte. Ltd. を設立

平成 27年 10月 ● (株)木村商店、境川本社ビルを改築、賃貸マンション「シャーマン併天町」に

平成 28年 7月 ● (旧)木村船舶用品(株)神戸店は、新たに神戸営業所に改組の上、神戸駅前「木村商店ビル」内に移転



も輸入木材(ラワン材)の減少と本船における荷役構造の変化にともない需要を失いましたので、営業権と従業員を本社に統合しました。

●平成18年には、株式会社 第二木村商店工作部についても、船舶用木製ハッチボード、防水重布ハッチカバーが船体構造の根本的变化により、スチールハッチカバーに代替される時代となり、当該社も来島ドックの専属的経営になりましたので、当社の資本参加を停止し分離しました。

●以上のようにいずれの企業につきましても、主業である船舶用品商の商品流通上の特殊性による経営上の「性」は、時代を乗り切って新しい時代に対応する必要性と能力の欠如を露呈するものであります。総じて私の時代は整理と取敢への対応に追われました。100年の歳月を経て、漸く当社の「在り方」が固まってまいりました。歴史に学びながら、次の100年に向かって大きく羽搏きたいものです。